

平成 28年 3月 31日

平成27年度総合文化研究所研究助成報告書

研究の種類 ※該当する()に ○を付ける	・海外共同 () ・共同研究 (○) ・個人研究 ()	
研究代表者 (所属・職・氏名)	看護学部・准教授・和田佳子	
研究課題名	母性看護学実習による実習体験と学生	
研究分担者氏名	所属・職	役割分担
岸田泰子 藤井智恵美	看護学部・教授 看護学部・准教授	研究計画・データ分析・まとめ 研究計画・データ収集・データ分析・まとめ
研究期間	平成 27年 4月 1日 ~ 平成 28年 3月 31日	
海外共同研究を実施することになった経緯 (海外共同のみ)		
研究発表(印刷中も含む)雑誌および図書 学会発表 Experiences and Studies in Maternal Nursing Practicum Affecting Future Design of Nursing Students' Life Course Keiko Wada , Chiemi Fujii , Yasuko Kishida 12th International Family Nursing Conference, Odense, Denmark, 2015.8		

研究実績の概要（1）

研究目的

母性看護学実習では、周産期の母子及びその母子を取り巻く家族への看護を主としている。職業志向的なキャリアプランをもつ看護学生にとって、母性看護学実習がワーク・ライフ・バランスや将来を予測しながらキャリアを積む等の学生のライフコース観に影響することが予測される。

事前研究で、母性看護学実習のライフコースへの影響について調査したところ、8割以上の学生が、実習が自分のライフコースに影響したと回答した。しかしながら、実習における満足度、実習中の技術経験項目、実習目標に対する自己評価点と、ライフコースへの影響との相関は認められなかった。

本研究は、今後の母性看護学教育における効果的な教育実践への示唆を得ることを目指し、母性看護学実習による学生の体験と自己評価の実態、また、母性看護学実習を終えた学生が自分のライフコースをどのようにとらえているか、また、それらとの関連性を明らかにすることを目的とする。

1. 看護学生の母性看護学実習における学びおよび体験、それに影響する要因について質問紙調査

看護学生のライフコースへの母性看護学実習の影響について検討する目的で、短期大学母性看護学実習終了後に実施された質問紙を分析した。114名の看護学生の記録の分析にあたり、24歳以下であり、結婚や出産経験者を除いた93名を対象とした。母性看護学実習が自分自身のライフコースに影響したと答えた学生は80名（84.9%）であった。自由記載からライフコースに関する記述が84コードあり、6カテゴリーが抽出された。結果より、周産期の家族のケアに焦点を当てた母性看護学実習は、看護学生のライフコースに影響を与えたことが明らかになった。学生は母性看護学に関する専門知識の学習と、母子を対象とする実習の経験を通じて、自分のライフコースを設計することが見出された。母性看護学実習における学生の経験は、自身の性と生殖に関する健康の維持に、学生自身の将来の家族の形成とワーク・ライフ・バランスを認識することにつながると考えられた。

これらの結果については、2015年8月にデンマークのオーデンセで開催された12th International Family Nursing Conferenceにおいて、「Experiences and Studies in Maternal Nursing Practicum Affecting Future Design of Nursing Students' Life Course」のタイトルでポスター発表を行った。

学部学生の母性看護学実習終了後の質問紙を分析中であり、看護学生の実習の学びと体験について、短期大学生の結果と比較検討予定である。

2. 看護学生の母性看護学実習における学びおよび体験、それに影響する要因についてインタビュー調査

学生の母性看護学実習の学びおよび、ライフコースへの母性看護学実習の影響について検討する目的で、インタビュー調査を実施した。母性看護学実習の学生自身のライフコースへの影響について質問紙調査で明らかになったが、その影響要因や背景についてより詳細に把握するため、母性看護学実習の場である病院の学生指導者、および短期大学学生と学部生自身にインタビューを行った。

今後、インタビュー調査結果の分析から、母性看護学実習における学びと、母性看護学実習の

研究実績の概要（2）

体験とライフコースとの関係性を分析する予定である。

3. 短期大学学生と学部生における母性看護学実習の学びと、母性看護学実習についての評価

学部の母性看護学実習では、実習前に看護場面を想定したロールプレイの実施や保健指導案の作成等を行い、また、実習場所を病院以外にも広げ、周産期に加えて女性のライフサイクル全般を考える実習を展開している。短期大学学生と学部生における母性看護学実習の学びの比較検討により、教育課程の差異による影響を明らかにし、今後の学部の母性看護学教育における効果的な教育実践の方向性を見出し、母性看護学実習についての評価を行う予定である。

